



めざすは「オンリーワン」企業

株式会社 マツオ
代表取締役 松尾 鉦治

株式会社マツオは、昭和26年に有限会社松尾工業所として創業を始め、当初は南西諸島の大型分蜜糖工場の建設の一翼を担って、機器の据付配管工事を行いました。その後各製糖工場は、操業後の補修部品や消耗部品の製作・納入を、松尾工業所に依頼をするようになりました。

初代松尾繁成社長と二代目久保田恒男社長は、台湾の製糖機械専門メーカーでの経験を生かし、特殊配合鋳鉄のミルロールを完成させました。これが好評で、次々に製糖部品を作ると共に、製糖機械本体の製作も手がけました。平成3年に社名も株式会社マツオに変え、今では製糖機械の消耗部品では、国内トップのシェアを持つようになりました。また、製糖機械の新たな製品開発も行い、多くの特許を取得しております。その中でも「甘蔗脱葉装置」は、サトウキビ農家を過酷な重労働から解放する画期的な「オンリーワン製品」です。従来はサトウキビの葉っぱを取り除くのは手作業でしたが、これを自動化しました。この装置は根っこだけを畑で切断し、葉がついたまま装置に投入すると、分離装置により葉っぱや土砂を

きれいに取り除くことができるもので、すでに奄美・沖縄の11カ所で使用されています。

製糖関係以外でも「オンリーワン製品」を最近開発しました。それは土木建設工事を省力化する「配筋組立機」です。道路やビルを建設する場合基礎強化のため大きなクイを現場で打ちます。そのクイの中の鉄筋は、現在手作業で作っていますが、「配筋組立機」はこの工程の自動化を可能にしました。昨年度から工業技術センターの助言、技術指導のもと鹿児島県創造技術開発研究補助事業として研究を続け、試験機が出来上がりました。今後は、試運転をしながら改良を重ね、実用化を目指し早く土木建設業界の省力化に貢献したいと思っております。

また、新しいニーズを求め新たな「オンリーワン製品」を開発して世に出していきたいと思っております。

今後とも、機械の製造・開発に当りましては、工業技術センターの皆様のご助言・御指導をいただきますように宜しくお願いいたします。



大型集中脱葉装置



配筋組立機